



2024年 5月15日

各 位

会 社 名 株式会社イー・ロジット  
代表者名 代表取締役社長CEO 谷辻 昌也  
(コード番号：9327 東証スタンダード市場)  
問合せ先 取締役CFO兼経営管理部長 堀池 康夫  
(TEL. 03-3518-5460)

特別損失の計上、通期連結業績予想及び通期個別業績予想と実績値との差異  
並びに剰余金の配当（無配）に関するお知らせ

当社は、2024年3月期第4四半期連結会計期間において特別損失を計上するとともに、2023年11月14日に公表しました2024年3月期通期連結業績予想及び2023年5月15日に公表しました2024年3月期通期個別業績予想と、本日公表の実績に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。また、本日開催の取締役会において、2024年3月31日を基準日とする剰余金の配当を無配とすることを決議しましたので、あわせてお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について

(1) 減損損失

(連結)

当社が保有する一部のフルフィルメントセンター（以下、FCといいます。）を閉鎖する経営判断等に伴い、回収可能性について検討した結果、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき一部の固定資産の減損処理の実施及び、第3四半期連結会計期間より連結の範囲に含めた連結子会社において、暫定的な処理をしていた期首残高に重要な会計上の修正すべき事項があることが判明し、将来の超過収益力が期待できなくなったことによるのれんの減損処理の実施等により、連結決算において減損損失972百万円を計上いたしました。

(個別)

当社が保有する一部のFCを閉鎖する経営判断に伴い、回収可能性について検討した結果、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき一部の固定資産の減損処理を行い、個別決算において減損損失307百万円を計上いたしました。

(2) 事業所閉鎖損失引当金繰入額

当社が保有する一部のFCの閉鎖に伴い生じる損失に備えて、連結決算及び個別決算において事業所閉鎖損失引当金繰入額405百万円を計上いたしました。

(3) 貸倒引当金繰入額

連結子会社の経営成績及び財政状態等を勘案した結果、個別決算において、同社への債権に対する貸倒引当金繰入額381百万円を計上いたしました。

## 2. 通期業績予想数値と実績値との差異

### (1) 2024年3月期通期連結業績予想と実績の差異 (2023年4月1日～2024年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (2023年11月14日発表)	百万円 13,500	百万円 △250	百万円 △260	百万円 △380	円 銭 △108.36
実績値 (B)	13,121	△1,193	△1,179	△2,485	△692.59
増減額 (B-A)	△378	△943	△919	△2,105	
増減率 (%)	△2.8	—	—	—	

※2023年3月期は連結決算を行っていないため、前期実績は記載しておりません。

### (2) 2024年3月期通期個別業績予想と実績の差異 (2023年4月1日～2024年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (2023年5月15日発表)	百万円 12,200	百万円 △500	百万円 △510	百万円 △550	円 銭 △157.26
実績値 (B)	12,869	△694	△674	△1,697	△473.09
増減額 (B-A)	669	△194	△164	△1,147	
増減率 (%)	5.5	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (2023年3月期)	12,825	△288	△281	△565	△161.81

#### 修正の理由

##### (連結)

売上高につきましては、前回発表予想を下回ったものの、ほぼ予想どおりの着地となりました。一方で、業績改善施策である固定費の削減として、FCにおける坪数の適正化やFCの統廃合を進めておりますが、削減効果の顕在化は2025年3月期以降を見込んでおり、BPOサービス事業における新規案件の稼働開始時期の遅れによる利益獲得時期についても2025年3月期にずれ込むこととなりました。また、特別損失として、上記のとおり閉鎖の経営判断を行ったFC等に係る固定資産の減損処理及び、第3四半期連結会計期間より連結の範囲に含めた連結子会社において、暫定的な処理をしていた期首残高に重要な会計上の修正すべき事項があることが判明し、将来の超過収益力が期待できなくなったことによるのれんの減損処理の実施に伴い、減損損失972百万円を計上し、さらにFCの閉鎖に伴い生じる損失に備えて事業所閉鎖損失引当金繰入額405百万円を計上したことなどにより、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は、前回発表予想を下回りました。

##### (個別)

売上高につきましては、BPOサービス事業において、新規案件の稼働開始が当初計画から後ろ倒しとなったものの、既存案件の出荷数の増加により前回発表予想を上回る着地となりました。一方

で、業績改善施策である固定費の削減として、FCにおける坪数の適正化やFCの統廃合を進めておりますが、削減効果の顕在化は2025年3月期以降を見込んでおり、新規案件の稼働開始時期の遅れによる利益獲得時期についても2025年3月期にずれ込むこととなりました。また、特別損失として、上記のとおり閉鎖の経営判断を行ったFCに係る固定資産の減損処理に伴う減損損失307百万円、FCの閉鎖に伴い生じる損失に備えて事業所閉鎖損失引当金繰入額405百万円、連結子会社の経営成績及び財政状態等を勘案した結果、貸倒引当金繰入額381百万円を計上したことなどにより、営業利益、経常利益及び当期純利益は、前回発表予想を下回りました。

### 3. 剰余金の配当

	決定内容	直近の配当予想 (2023年5月15日公表)	前期実績 (2023年3月期)
基準日	2024年3月31日	同左	2023年3月31日
1株当たり配当金	0円00銭	未定	0円00銭
配当金総額	—	—	—
効力発生日	—	—	—
配当原資	—	—	—

当社は、株主の皆様に対する利益還元を重要な経営課題の一つとして捉えており、経営成績及び財務状況等を総合的に勘案し、株主還元策として安定的に配当を実施していく方針であります。

2024年3月期の期末配当につきましてはこれまで未定としておりましたが、前述のとおり当期純損失を計上すること等を総合的に勘案した結果、誠に遺憾ではございますが無配とさせていただきます。

株主の皆様には、深くお詫び申し上げますとともに、可能な限り早期に復配できるように努めてまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以 上